

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成22年4月14日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長
松 本 紘

| | | | |
|---------------|---|--------------------------------|-------------|
| 事業区分 | 平成21年度・シンポジウム等開催助成 | | |
| 事業内容 | 京都大学附置研究所・センターシンポジウム 「京都からの提言－21世紀の日本を考える－(第5回)」 | | |
| 開催期間 | 平成22年3月13日 | | |
| 開催場所 | 福岡 アクロス福岡 | | |
| 成果の概要 | 別添のとおり 「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(別添のとおり) | | |
| 会計報告 | 事業に要した経費総額 | 13,281,952 円 | |
| | うち当財団からの助成額 | 4,000,000 円 | |
| | その他の資金の出所 | 全学協力経費、読売新聞大阪本社寄附金、研究所・センター分担金 | |
| | 経費の内訳と助成金の使途について | | |
| | 費 目 | 金 額 (円) | 財団助成充当額 (円) |
| | 会場使用料(アクロス福岡) | 1,096,648 | |
| | 広告費(読売新聞広告) | 6,164,525 | 2,000,000 |
| | 印刷費(ポスター、チラシ等) | 2,287,677 | 2,000,000 |
| | 通信費(広報物等発送費) | 697,795 | |
| | シンポジウム進行業務委託費 | 1,855,500 | |
| | 人件費(事務補助、当日運営要員謝金) | 661,740 | |
| 旅費(打合せ、会場調査等) | 391,120 | | |
| 消耗品(PPC用紙等) | 752 | | |
| 雑費 | 126,195 | | |
| 合 計 | 13,281,952 | 4,000,000 | |

成果の概要

報告者：(実施代表部局) 京都大学化学研究所長 時任宣博

第5回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言 21世紀の日本を考える

貴財団のご支援を得て京都大学の22の附置研究所・センターが主催のシンポジウム「第5回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言 21世紀の日本を考える」を3月13日(土)福岡市・アクロス福岡において開催いたしました。

第1回の東京・品川、第2回の大阪、第3回の横浜、第4回の名古屋に続く第5回目の今回は、「グローバル社会に生きる 未来を見据える目」をサブテーマに、吉川 潔理事の開会挨拶がありました。(松本総長の挨拶を予定していましたが、当日体調不良のため欠席されました。)その後、「地球社会の変動と複合する災害」寶 馨教授(防災研究所)、「日本の伝統文化から地球環境問題の未来を考える」カール・ベッカー教授(こころの未来研究センター)、「地球の体温、私の体温」梅田 真郷教授(化学研究所)、「都市と地域経済：空間経済学の視点から」森 知也教授(経済研究所)、「海の生物を調べつくす挑戦」白山 義久教授(フィールド科学教育研究センター長)の5つの講演がありました。ついで時任 宣博教授(化学研究所長)をコーディネーターに、パネリストとして、講演者の中から、寶、森、ベッカー各教授に、またゲストとして、矢原徹一教授(九州大学大学院理学研究院)、小林清人編集委員(読売新聞西部本社)を加え、「地方から日本(世界)を変える」というテーマのもとパネルディスカッションを行いました。

各講演では、今回のサブテーマ「グローバル社会に生きる 未来を見据える目」のもと、学際融合による最新の研究成果がわかりやすく紹介されました。会場には地元九州からの参加者が多く、約450名の参加者の8割を占めました。また参加者の年齢は15歳から92歳と幅広く、参加者の年代別分布を調べてみると40代以上の参加がやや多いが、ほぼ均等に全世代からの参加がありました。

パネルディスカッションでは休憩時間を利用して会場から意見を募集し、パネリストが舞台上でそれらの質問に回答するなど、聴講者の興味や感心を引き出

すような工夫をし、楽しんでいただきました。

聴講者の皆様からいただいたアンケート結果によると、「内容が多様なので驚きました」「各講師のレクチャーのレジュメを事前に配布して欲しい(内容が豊富で濃く、ハイレベルなのでとてもメモできない)」、「いろいろな分野から、最先端の研究が聞けて、大変面白かったです。市民がこういう内容を理解して、政策へも働きかけができるように、是非学ぶ機会を増やしてほしいと思います」等々、概ね好評の意見をいただき、多くの方々に大学の研究が人々の生活や地域社会に貢献していることを知っていただく機会が提供できたと考えます。また、これらの意見を今後開催するシンポジウムに生かしていきたいと考えております。

以上、第5回のシンポジウムの成果を報告いたしますとともに、本シンポジウムは、今後も全国主要都市で年1回開催して参りますので、引続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。